

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

## サーキュラーエコノミー

### 最近の新聞記事から（引用）

「環境省と経団連、「循環経済」促進で合意」（日本経済新聞 2021年1月21日）朝刊1面

「環境省と経団連は20日、資源の再利用やエネルギーの有効活用を進めていくことで合意した。「循環経済パートナーシップ」として、官民で新たなリサイクル技術の開発や省資源に取り組む。」

SDGs（持続可能な開発目標）の達成にもつながる取組として、ここ数年、経済のトレンドとなっている「サーキュラーエコノミー（循環経済）」。

ヨーロッパ発の新たな経済成長のモデルで、これまでの使い捨ての「リニアエコノミー（直線型経済）」とは異なり、商品を使い続ける循環型経済です。世界的な注目を集めており、EUでは既に2015年に行動計画「サーキュラーエコノミーパッケージ」が採択されています。

書名・記事名	出版情報等
「儲かるエコ」の新潮流 サークュラーエコノミー	『Newsweek 日本版』 2018年10月16日号 33巻39号 (1615) p19-34 東部 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">雑誌</span>
<p>売れ残った食品の再配分事業を行うフランスのフェニックス社、環境にやさしいコオロギを使った食品や養殖設備を開発・販売するフィンランドのエントキューブ、古いバッテリーからレアメタルなどを取りだして再資源化する中国の格林美。世界各国で実践されている20のケーススタディから、サーキュラーエコノミーを学ぶ。</p>	
サーキュラー・エコノミー デジタル時代の成長戦略	ピーター・レイシー著 日本経済新聞出版社 2019 中央：3361/80 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">図書</span>
<p>サーキュラー型ビジネスモデルを「サーキュラー型のサプライチェーン」「回収とリサイクル」「製品寿命の延長」「シェアリング・プラットフォーム」「サービスとしての製品」の五つの類型に分類し、先行者利益を得るための変革の方法を説く。最終章に、日本企業にとっての新しい成長戦略論、最初の一步を踏み出すための視点を付し、日本での取組の参考となる。</p>	
循環経済ビジョン2020	経済産業省 2020.5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Web情報</span> <a href="https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/junkai_keizai/20200522_report.html">https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/junkai_keizai/20200522_report.html</a>
<p>日本でも1999年には「循環経済ビジョン」が策定されていたが、それ以降の世界情勢や諸外国の動向、技術の進歩などを受けて、2020年に新たに出されたビジョン。従来の線形経済から循環経済への転換をチャンスとして捉え、早期の転換によりグローバル市場の獲得を通じた産業競争力と持続可能な成長を実現するための方向性を示す。</p>	



<p><b>欧州 CE 政策が目指すもの</b> Circular Economy がビジネスを変える</p>	<p>21 世紀政策研究所 2019. 3 <a href="http://www.keidanren.or.jp/2lppi/pdf/thesis/190405.pdf">http://www.keidanren.or.jp/2lppi/pdf/thesis/190405.pdf</a></p>	<p><b>Web 情報</b></p>
<p>経団連の公共政策のシンクタンク、21 世紀政策研究所による報告書。近い将来には避けることができない市場経済のサーキュラーエコノミー化によりどのような変化がもたらされるのか、また、その変化に対してどのように備えることができるのか、解答を試みる。</p>		
<p><b>特集 サークュラーエコノミー</b></p>	<p>『知的資産創造』野村総合研究所 2020 年 12 月号 <a href="https://www.nri.com/jp/knowledge/publication/cc/chitekishisan/1st/2020/12">https://www.nri.com/jp/knowledge/publication/cc/chitekishisan/1st/2020/12</a></p>	<p><b>Web 情報</b></p>
<p>民間シンクタンク野村総合研究所の情報誌。サーキュラーエコノミーについて「DX（デジタルトランスフォーメーション）」「製造業」「静脈産業」の 3 つの観点から論じる。廃棄物を回収して再生・再利用、処理・処分を行う「静脈産業」については、国内では中小企業が多く、「体系化されていない技術・プロセス」と「情報連携・有効活用に向けたデジタル化の遅れ」といった課題を提示している。</p>		
<p><b>サブスクリプション</b> 製品から顧客中心のビジネスモデルへ</p>	<p>雨宮寛二著 KADOKAWA 2019 東部：675/267</p>	<p><b>図書</b></p> 
<p>サーキュラーエコノミーの一つの類型「サービスとしての製品」であるサブスクリプション。「所有」から「利用」への消費者ニーズの変化に対応した新たなビジネス形態について、創業経緯・経営者の思考などを豊富な事例から詳細に解説する。自動車・コンテンツ・外食産業・家具・家電など国内の事例も多数紹介している。</p>		
<p><b>4.5 兆ドル生むサーキュラーエコノミー</b> 「プラごみゼロ」が生死を分ける</p>	<p>『日経 ESG』2020 年 11 月号 (257) p26-41 東部</p>	<p><b>雑誌</b></p>
<p>企業が持続的に成長するために欠かせない ESG（環境・社会・ガバナンス）に焦点を絞った経営者向け雑誌。特集では、プラごみに焦点を当てて、サーキュラーエコノミー関連事業に対する新たなファンドの創設や、花王やスターバックスなどのプラ削減の取組、プラスチック製品の原料を製造する化学メーカーの取組などを紹介する。</p>		
<p><b>サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環ファイナンス研究会</b></p>	<p>経済産業省 <a href="https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/ce_finance/index.html">https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/ce_finance/index.html</a></p>	<p><b>Web 情報</b></p>
<p>サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環に関する取組を進める企業が、国内外の投資家や金融機関から適正に評価を受け、投融資を呼び込むことができるよう検討を行ってきた政府の研究会。令和 2 年 5 月から 5 回を開催し、令和 3 年 1 月 19 日に報告書を公開した。資料や議事概要を公開していて、最新の国の動向を知ることができる。</p>		
<p><b>Circular Economy Hub</b></p>	<p>ハーチ株式会社 <a href="https://cehub.jp/">https://cehub.jp/</a></p>	<p><b>Web 情報</b></p>
<p>国内外のサーキュラーエコノミーに関するプラットフォームサイト。最新情報や事例、研究などを紹介するほか、サーキュラーエコノミーについて学習するための動画やオンライン学習プログラムなどのコンテンツも公開している。</p>		